キャンパスライフ

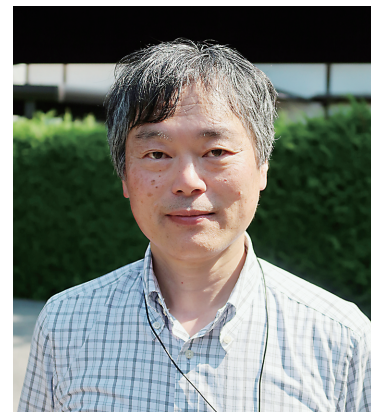
青森大学　忍者部

青森大学の忍者部は、日本で唯一の大学公認の忍者部として、津軽の忍者の歴史を明らかにすると共に、忍者の魅力をアピールすることに力を注いでいる。顧問を務める薬学部教授の清川繁人さんが昨年４月に設立した新しいサークルで、薬学部の１、２年生が主体となって忍者に関する文献や建築物の調査、剣術を中心とした古武術の稽古、アクロバットを売りとした観光客向けのショーなどに取り組んでいる。ケガの治療などに使用する薬を忍者が製造していた手がかりを発見するなど、早くも活動の成果を上げつつある。部員は「達成感を味わえるので楽しい」と語るなど、充実した日々を送っている。

ショーではアクロバットで観客を魅了する

地域を沸かせる現代の忍者

日々鍛錬 観光客向けショーで活躍



顧問の清川繁人さん

清川さんは、忍者修行を目的に来日する外国人の増加を知ったことがきっかけで忍者に興味を持ち、忍者の魅力を伝えること、津軽の忍者の学術的調査を目的に、昨年４月に忍者部を立ち上げた。薬学部の１、２年生を中心に28人の部員が所属し、韓国からの留学生も活動に参加している。

合同稽古で腕を磨く木村さん（左）と安井さん（中央）

週に２回ほど、大学の道場や体育館で忍者ショーで披露する演武やアクロバットを練習している。男女比が同じ忍者部では、女性部員も積極的にバク転やバク宙などに挑戦している。

また、弘前市で活動する武術団体「修武堂」が主催する合同稽古にも、月に３～４回の頻度で参加。柔術、居合、抜刀など、様々な武術を取り入れているが、中でも「卜傳流（ぼくでんりゅう）」と呼ばれる剣術は、津軽の忍者集団の頭領が師範を兼任していた時期があったことから、忍者部が合同稽古に取り組むきっかけとなった。

弘前市内の日本家屋で稽古を行うことが多く、弘前大学の古武術研究会、他流派の指導者などと一緒に剣術の型の見本を見学した後で、木刀による打ち込みで汗を流す。手裏剣投げも稽古に取り入れており、この地域における忍者の影響力の大きさが見てとれる。

薬学部薬学科１年生の木村勇弥さんは、高校時代はバスケットボール部に所属していたが、大学では友人に誘われて忍者部に入部した。アクロバットや武術だけでなく、ボクシングなども教えてもらえることから、「想像以上に色々な体験をしています。鍛えられていると実感しますね」と、充実感を語る。

日頃の鍛錬の成果は忍者のＰＲ活動で発揮する。青森県の港には客船が頻繁に寄港し、国際空港もあることから、↗

普段の練習にも熱を入れる

失敗から学ぶ 薬を使う時の 12のルール

著 齋藤百枝美（帝京大学薬学部実務実習研究センター教授）
宮本法子（東京薬科大学薬学部客員教授）

患者さんが薬を飲んだり使ったりするときに守ってほしいルールや注意するポイントを絵本のような読みやすい本にまとめました。
日常で起こり得る12ケースを挙げ、「事例」～「解説」～「約束」の流れで薬を使う時のルールを簡単に学ぶことができます。

◆セルフメディケーションの一助となる一冊！
◆薬局や診療所などの待合室におすすめ！
◆学校におけるくすり教育にも活用できる！

貰ったり あげたりしたら いけないよ
かみくだいたり カプセルをはずして 飲むのはやめよう
ルールを守って 正しく使いましょう

A5判／96頁／定価1,200円+税

薬事日報社　書籍のご注文は、オンラインショップ（http://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。